

子どもの育ちに必要な 保育者の在り方

～インクルーシブ保育を通じた共育ち～

1. 幼保連携型認定こども園 北海道文教大学附属幼稚園

恵庭市漁町 2021年4月開園

札幌市南区石山
約50年の幼稚園は
2020年3月に閉園

学年別活動
ひよこ(3歳)
かめのこ(4歳)
つるのこ(5歳)

幼児
たんぼ組
あさがお組
ちゅうりっぷ組

乳児
めばえ組(0歳)
ふたば組(1歳)
つぼみ組(2歳)

異年齢混合クラス
各クラスに3歳・4歳・5歳 6～7名ずつ

年長 ☆小さいお友達のお手伝いをすることで、自己肯定感が育つ
年中少☆お手伝いをしてもらうことで憧れの気持ちを持つようになる

こころの育ち

育児担当制
基本的に、食事・排泄・午睡は担当の保育教諭が関わる
日々変わらない、安定した環境の中で、興味関心の広がり援助する

2. これまでの実践

こども主体・環境による保育 ※1989年幼稚園教育要領・保育所保育指針

保育者1年目 こども達のために保育をすすめる

- ・教師主導
- ・一斉保育
- ・教え込み

☆自分の中では
こども主体の保育を行っているつもりなのに…

保育者15年目

- ・教えてあげなければいけない
- ・こどもはまだまだできない事が多い
- ・こどもとの間に距離を感じる

これで本当に
いいのだろうか…

子どもに任せる

新たな姿勢
『子どもの行動を見取る』『我慢して待つ』『子どもとの立ち位置に気をつける』

3 (1) 保育エピソード お泊まり会



◎年中から入園
言葉の遅れ・備食・友達との関わりが少なく一人遊びが好き・常に個別の声かけ
年長進級当初は活動内容の理解が難しい
6月、お泊まり会の活動が始まるがどうのように行動してよいのか戸惑う

これまでの取り組み…常に保育者が指示の声をかける
新たな取り組み…友達同士の助け合いを促す

お泊まりの会のスケジュールを決めるとみんなで温泉に入りたいとなる

R君 「ばばちゃんのお風呂いいよ」
友達 「ばばちゃん？おばあちゃんのこと？」
R君 「ばばちゃん」
友達 「じゃあ、R君のばばちゃんの所にしようよ」
私 「ばばちゃん？おばあちゃん？家のお風呂だからみんなで行けるかな…」
※絶対に無理だろう…
R君 「聞いてみる」

一般家庭のお風呂にみんなでは行けない→R君がみんなの前で発信することが初めて
保育後職員室にて…実はR君のばばちゃんの家は…



自分の意見を持ったり伝えたり 困りごとは友達に聞いて解決

大人が多くの事を教えようとするよりも、友達との関わりの中でお互いに認め合うことが育ちにつながる

友達同士が認め合える環境の確保

3 (2) 保育エピソード 移転に伴う戸惑い

◎新園開園に伴い、これまでの保育園から移転
保育室にいない・保育者と1対1の関係を強く求める・子どもとの関わりは気分次第
壁を蹴る・物を壊す・よく癇癪を起こす

- ◎…園のルールをわかってもらいたいと伝えたり制止する
- ◎…まずは本人の気持ちを受け止めた上で癇癪の回数を減らす
- ◎…本人の遊びを十分に受け止める
- ◎…専門機関への相談

ペットボトルに水を入れ、蓋の部分に絵具を付けて閉め、ペットボトルを振ると色水になる

Y君「次はこの色」「次はこれ」

友達「私もやりたい!」

Y君「うるさい!」

友達「私もやりたい!」

Y君「邪魔すんな!!」

癇癪を起こす→抱っこして外の風にあたりクールダウン→戻ってきたが子どものざわざわする声で癇癪を起こす

A…みんなもやってみただけだからY君にも少しは我慢を覚えてもらった方がよいのではないかと

B…年長ではあるが、1歳児くらいの関わりが必要

C…危険なことはやはり癇癪を起こしても止めないといけないだろう

D…環境の構成にも限りがある

4. 保育者の在り方

知識を持つ・学ぶ

☆ 経験はあるが、経験のみでは保育の質は向上しない

☆ 障害児保育の研究も日々進む

☆ 保育者は研究者として理論と実践の往還が必要

専門機関等との連携

☆ 相手のアプローチを待つだけでなく積極的に関わる

☆ 具体的な関わりを共に考えていただく

☆ 保護者支援へのアドバイス

保護者との共有

☆ 子ども園と自宅では環境(物的・人的)が大きく違う

☆ 子ども園での様子を具体的に伝える

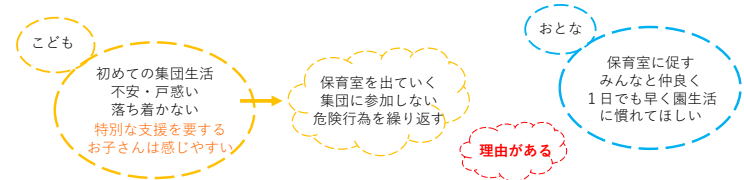
☆ Y君の姿の共有

わからない・困り

考える・話し合う・やってみる

子どもの姿を共有し、共通理解する

5. おわりに



乳幼児期から多様性の中で育つことにより
将来の共生社会への第一歩になると信じて
子ども同士の関わりや育ちあいを支える

